

# 結婚式や葬儀などにかかわる さまざまな仕事を紹介



冠婚葬祭とは、人が生まれてから亡くなるまで、また亡くなったあとに行われる家族・親族を中心に行われる儀式のこと。お宮参り、七五三、成人式、結婚式、葬儀、法事といったこれらの儀式を行う際には、宗教家や多くの専門家、サービス系の職種などが携わっている。人の一生の節目に立ち会い、さまざまなかたちでサポートする仕事を紹介しよう。

## 仕事がわかる業界図鑑 vol.27

# “冠婚葬祭業界”

取材・文 / 伊藤敬太郎 撮影 / 田中史彦 イラスト / 藤井昌子

### 仏具・墓石を作る仕事



仏壇職人

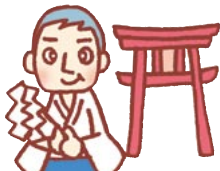
仏壇会社に所属し、仏壇を作る。漆塗り、彫刻、組み立てなどパーツ、工程ごとに職人がいる。

### さまざまな儀式を司る宗教職



僧侶

仏式の葬儀・法事・結婚式などを司る。仏教系大学などで学び、厳しい修行を経れば、寺の子息でなくてもなることは可能。



神主(神職)

神社で行われるお宮参り・結婚式・葬儀など神式の儀式を司る。なるには神職養成機関で学ぶなどして位階を得る必要がある。



神父・牧師

キリスト教系の結婚式や葬儀など教会で行われる儀式を司る聖職者。神父(司祭)はカトリック、牧師はプロテスタント。

### 晴れ舞台に立つ人をキレイにする仕事



ヘアメイクアーティスト

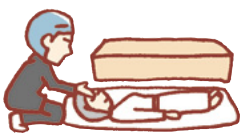
成人式や結婚式に臨む女性のヘアメイクなどで活躍。ブライダル専門のサロンもある。



エステティシャン

最近は結婚式を控えた女性の間で「ブライダルエステ」が人気。ダイエットや全身のケアを行う。

### 葬儀にかかわる仕事



納棺師

故人の遺体を棺に納めるための、着せ替えなどの一連の作業を行う仕事。葬儀会社が行う場合もある。映画「おくりびと」はこの納棺師の仕事を描いている。

### 葬儀を取り仕切る仕事



葬祭ディレクター

遺族の希望を聞いて通夜・告別式の内容やスケジュールを決め、会場設営や寝台車・霊柩車などの手配、お寺とのやりとり、納棺、葬儀の進行管理や司会などを行う(以上は仏式の場合)。「葬祭ディレクター」は厚生労働省認定の資格名でもある。

打ち合せ

葬祭場

葬祭場には葬儀会社が運営するものほか、自治体が運営する施設もある。最近では家族葬に対応した施設を設ける葬儀会社も多い。ベトナム専門の葬祭場などもある。

葬儀会社

葬儀の企画・進行管理や葬祭場の運営を行う会社。葬祭ディレクターなどが所属。墓石・霊園会社、仏具会社のいずれか、あるいは両方を兼ねているケースも多い。



フラワーサービス会社

結婚式・披露宴や葬儀の際に大量の花を提供したり、花を使った空間演出を提案したりする会社。その他、オフィスや施設などを対象としたサービスも行う。

### 結婚式・披露宴を演出する仕事



フラワーコーディネーター

結婚式会場などで、花をアレンジ、コーディネートして空間を演出する仕事。フラワーショップやフラワーサービス会社などに所属するほか、フリーでも活躍可能。



テーブルコーディネーター

皿、フォーク、ナイフなどの食器やクロスなどのスタイリングをする仕事。結婚式場やレストランのスタッフとして働くほか、フリーで雑誌やCMの撮影などで活躍する人も。



コスチュームコーディネーター

結婚式のスタイルや新郎新婦の要望に応じたコスチュームを提案する仕事。衣装、ヘアメイク、アクセサリー、ブーケなどータルでコーディネートするスペシャリスト。

### ブライダル関連の情報提供やグッズ販売をする仕事



ブライダルグッズ専門店

招待状などのペーパーアイテムやリングピロー、ウェルカムボードなどの演出グッズ、引き出物などさまざまなブライダルグッズを販売。



ブライダル情報誌編集者

結婚式のスタイル、ブライダルファッション、各種ブライダルサービスなどに関する情報を提供する情報誌・Webサイトの編集を行う。

### 指輪を制作する仕事



ジュエリーデザイナー

指輪などのアクセサリをデザインする。ジュエリーメーカー社員のほか、フリーで活躍可能。ブライダルリング専門のデザイナーもいる。

### 結婚式・披露宴を企画・運営する仕事



ブライダルコーディネーター

結婚式を控えたカップルの希望を聞き、ニーズに合ったブライダルプランを企画・提案し、式当日の進行管理なども行う。ウェディングプランナーなどいくつかの呼称があり、ABC協会認定ブライダル・プランナー検定など関連する民間資格も複数ある。サプライズ演出など趣向をこらしたサービスで結婚式を演出。

結婚式場、ホテルなど

結婚式・披露宴の舞台となる結婚式場やホテル。ブライダルコーディネーターや宴会担当スタッフ、料理人、コスチュームコーディネーターなど多くの専門家が所属。結婚式の多様化に伴い、ハウスウェディング、海外でのリゾートウェディング、ガーデンウェディングなどのニーズも拡大し、それぞれに特化したブライダル会社も増えている。

### 最新の業界事情

#### 挙式・披露宴の費用総額は平均325.7万円

冠婚葬祭に関連する業界として注目されるのはやはりブライダル業界と葬祭業界。リクルート『ゼクシィ』の調査によると、2010年の挙式・披露宴・披露パーティー総額の平均は前年比で5万円ダウンの325.7万。ハウスウェディングの人気などで昨々までの数年間は上昇が続いていたが、ここに来て横ばい傾向を見せている。こうした状況を受け、少人数婚や低価格プランを提供するなど企業が提供するサービスも一層多様化。アパレルなど他業界からの新規参入もあり、競争は激しくなっている。一方、葬祭業界は、高齢化が進むなか、需要は拡大中。オリジナルなスタイルの家族葬が増加するなど、こちらも多様化するニーズへの対応がカギになっている。

#### なるには?

葬祭ディレクターになるには、まず葬儀会社に就職。大手の場合は大卒が条件になることが多いが、会社によっては高卒者を受け入れている場合も。当初はアシスタントとして経験を積み、2年の実務経験を積み葬祭ディレクター2級の受験資格が得られる。2級合格後2年またはトータル5年の実務経験を積み1級受験資格が得られる。

例え、21:00に遺族から依頼の連絡があった場合、22:00には病院に到着し、30分後には自宅に搬送。2時間ほど遺族と打ち合せをし、深夜に役所での手続きを済ませていったん帰宅。翌日は9:00から通夜の準備をし、18:00から通夜。終了は21:00ころ。

最近では身内だけで慣例にとらわれずに行う「家族葬」が増加。親身になって遺族の相談に乗るから、故人や遺族のために何が出来るかを考えるのも重要な役割だ。高校野球好きだった故人のために、自身甲子園球児だった鈴木さんが私物の甲子園の砂を用意し、故人へのプレゼントとしてお棺に納めたことも。遺族には涙を流してよこされた。「鈴木さんが担当でよかった」。そう言っていただけだと最もうれしい瞬間ですね」専門性とともに、ハートが求められる仕事だ。

遺族から葬儀社への依頼があった時点から葬祭ディレクターの仕事が始まる。メモリアルアートの大野屋では、担当が決まると、ご遺体の搬送の手配から、葬儀全般の手配・進行管理、お墓や仏具に関する相談などアフターフォローに至るまで、1人のディレクターが責任をもって行う。そのため、求められる専門知識は幅広い。鈴木さんは同社に入社後、資格取得に熱心に取り組み、現在は、葬祭ディレクター1級、お墓ディレクター2級、仏事コーディネーターの3資格を取得している。「葬祭ディレクターは遺族の方にとって信頼される存在でなくてはなりませんから、勉強して専門知識習得に励みました」

幅広い専門知識とハートが求められる葬儀のプロ

### 葬祭ディレクター Funeral Director

株式会社メモリアルアートの大野屋 小平営業所  
鈴木義明さん(31歳)



神奈川県・日大藤沢高校、帝京大学経済学部卒業。新卒でメモリアルアートの大野屋に就職。墓石の営業担当を4年経験した後、葬儀事業部へ。